

「困窮者救え」賀川豊彦の志継ぐ

天国屋カフェ 住民憩う場に

日本を代表する社会運動家の賀川豊彦（1888～1960年）の肖像

が貧困者の栄養改善のため、100年前に開いた食堂「膳飯天国屋」の精神を引き継ぐカフェが、神戸市中央区吾妻通5の「賀川記念館」で週3回、開かれている。「天国屋カフェ」と名付けられ、ボランティアが運営。秋から月1回の夜間営業も始まり、地域住民の憩いの場として定着しつつある。

神戸の記念館



も兼ねて、コーヒーや紅茶の提供を開始。その後、500円のランチも始めた。

「天国屋」は賀川が1

同記念館に併設された910（明治43）年11月、教会の上内鏡子牧師（45）地域の貧しい人々に新鮮が「生きづらさを感じてで栄養のある食事を安価に提供しよう」と、現在の「天国屋」を創設した。同記念館がオーカシ、無銭飲食が横行し、閉鎖された4月、来館者がたため、3カ月で閉鎖に追い込まれた。

（大月美佳）

11年の「救霊団（現・イエス団）年報」では、閉鎖の理由について賀川自身が「毎月10円以上欠損するのと、一寸と悪魔が這入ったので」と説明。一方、正月には100人

に無償で雑煮を振る舞ったことなど「天国屋」の成果にも触れ「金が出来たらまた開きたい」とも記されている。

営業は木、金、土の午前10時～午後4時。次のナイトカフェは12

「100年間、活動が眠っていたので、4カ月目からの再スタート」で「と上内牧師。運営スタッフの中には、引き継ぎの経験があり、社会復帰に向けたトレーニングの機会として手伝っている人もいます。」

9月から月に1回始めた夜間営業は、カフェのPRと資金集めのため。メニューはアルコール全品300円、手作りの総菜3品500円などで、毎回、地元住民らが何十人も訪れて夜遅くまでにぎわう。



住民が集う「天国屋カフェ」。和気あいあいとした雰囲気。神戸市中央区吾妻通5

ボランティア「悩み分かち合って」
週3回営業

月10日の予定。同記念館 ☎078・221・3627